

# 小倉悠紀の詩情

## にちげつ 日月は

——（詩集「モザイク」より）

わたしのポケットの中で

小さい鉛筆が いいのです

ポケットに入れるのには

手帖についている細い鉛筆は

便利かも知れませんが

花作りで荒れた私の指の間では

少し 哀しすぎます



普通の太さの鉛筆で

永い間大切に使われていたけれど

もう短くなってしまつて……

なんていうのが いいのです

用済みだなんて言つてポイと棄て去るには

あまりにも 気の毒すぎますから……

これからは 私の残された人生と

肩をよせ合つて 生きて行きましょう

いつも 私のポケットの中で。

## にちげつ 日月は

日月は 追想の奥津城

あらゆるものを美化しながら

風化させてゆく

厭な思い出も

辛い苦しみも

愚かな哀しみも



そして楽しみは 更にまた懐かしく  
幼な児のように  
その奥底に眠らせてくれる

日月は 人の世の奥津城に

消えたかに見えて

燃え続く灯火。

